

平成28年度「熊本県学力調査」結果（概要）

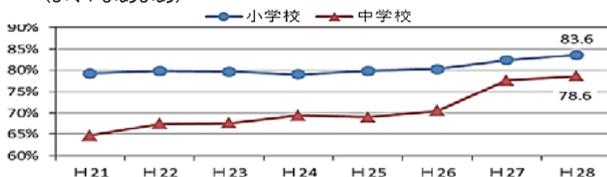
熊本県教育委員会

【質問紙調査の結果】

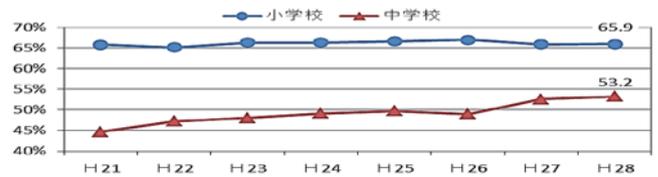
児童生徒対象の調査

教科の勉強が「好き」「分かる」と回答した児童生徒は増加傾向にあります。また、勉強で分からない内容があったときに、自分なりに努力する児童生徒も増えてきています。一方、宿題がないときは家庭で勉強しないと回答した児童生徒が増えており、今後手立てが必要です。

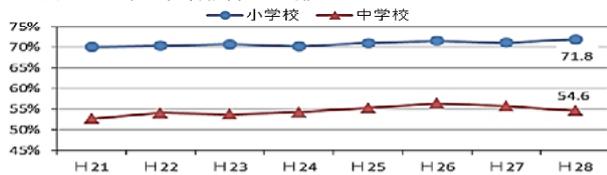
- 勉強で分からない内容があったとき、先生や友達に聞いたり、調べたりするなど、理解できるように自分なりに努力をしていますか。（よく+まあまあ）



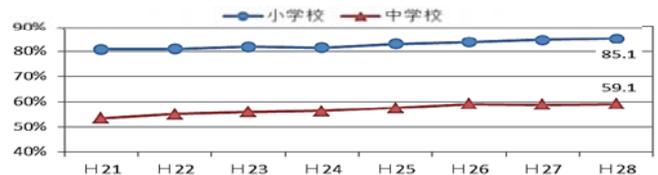
- 授業で難しい内容を勉強したり、難しい問題に挑戦したりする時間をもっと増やしてほしいと思いますか。（とても+まあまあ）



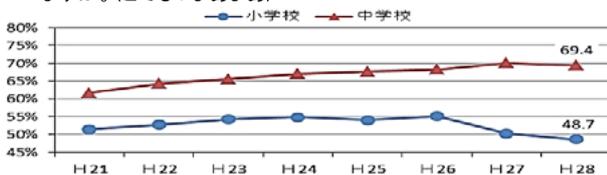
- 教科の勉強は好きですか。（好き+まあまあ:各教科の平均値）



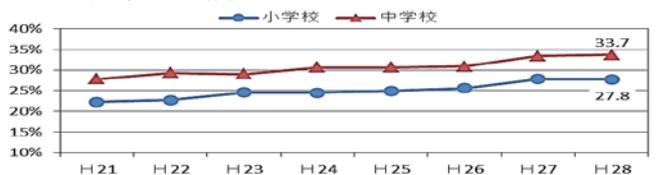
- 教科の勉強はどの程度理解できていますか。（よく+たいたい:各教科の平均値）



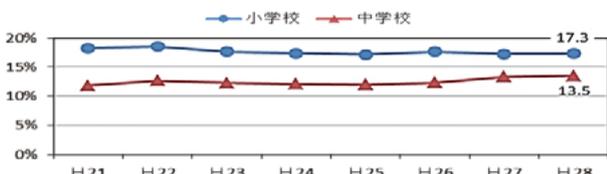
- 前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えてほしいと思いますか。（とても+まあまあ）



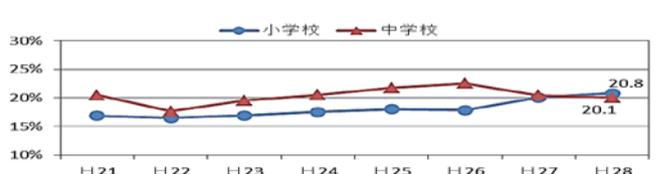
- 学校の授業がある日に、授業時間以外に一日あたりどれくらい勉強しますか。（1～2時間）



- 家で、学校の宿題のほかにどんな勉強をしていますか。（自分で計画を立てて勉強している）



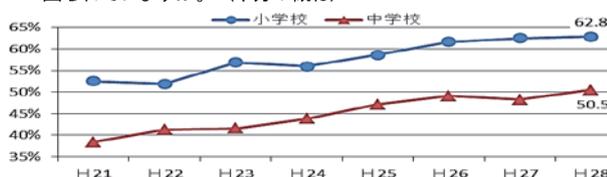
- 宿題がないときははしない



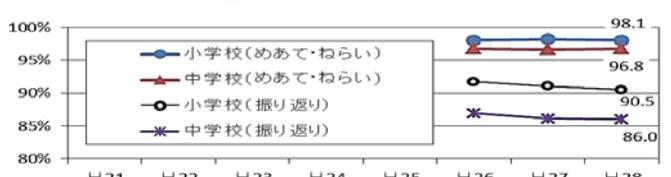
教員対象の調査

本県が推進している徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた熊本型授業を意識して授業を行っている教員の割合は増加傾向にあります。授業の冒頭で目標を示す活動もほぼ全ての教員が行っています。一方、授業の振り返りや教科の指導として家庭学習の課題（宿題）を与えている教員の割合（中学校）はまだ十分でない状況が見られ、今後の取組が求められます。

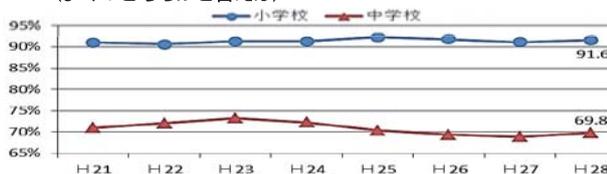
- あなたの授業では、児童生徒の理解の状況や習熟の程度に応じて補充的な学習や発展的な学習を行うなど、個に応じた指導の充実が図られていますか。（十分+概ね）



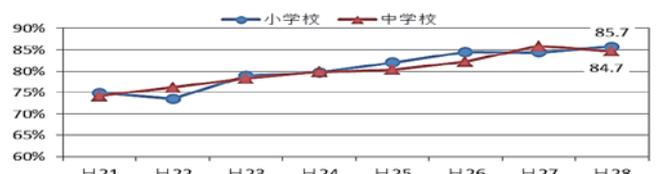
- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を示す活動や授業の最後に、学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れていますか。（よく+どちらかと言えば ※H26年度より調査）



- 教科の指導として家庭学習の課題（宿題）を与えていますか。（よく+どちらかと言えば）



- 本県が推進している徹底指導と能動型学習とのめりはりをつけた熊本型授業を、どの程度意識して行っていますか。（十分+概ね）



「分かる授業」を実現させましょう

「分かる授業」のための効果的な取組

※成果を挙げた学校の取組より

- 「何を学ぶのか」が分かる「めあて」を提示し、解決の見通しをもてるようにする。
※学習指導要領及び解説に示された内容に基づいているか確認しましょう。
- めあてに沿って、「じっくり考え」「はっきり表現」させる場を設定する。（能動型学習）
- 基礎的・基本的な知識・技能が定着したかどうか適用問題で確認する。定着していなければ「きちんと教える」場を設定する。（徹底指導）
- 「何を学んだのか」が分かる「まとめ」を提示する。
- 「分かった」から「できた」へ誘う「振り返り」の場を設定する。

「まとめ」・「振り返り」まで確実にいきましょう！

※各教科の学習の流れに沿った、「まとめ」・「振り返り」の在り方



【国語】

- まとめ
 - ・めあてや課題と照らして行い、課題解決の方法や学習内容をまとめる。ノート等に蓄積し、その後の「学習の手引き」として活用させる。

(例) 指導事項を踏まえ、学習内容に沿ってまとめる。
例えば、登場人物の心情の捉え方、あらすじの書き方、要約の仕方、図書館で見付けたい本を探す方法、指示語・接続語の役割、キーワード・中心文・話題・結論の探し方 など
- 振り返り
 - ・学習の成果や課題とその要因、課題の改善方法等を共有させる。課題を自覚することで、家庭学習や次時以降の授業につながる。

(例) 以前の考えとの比較と変容、発見、課題解決の工夫、意味付け「〇〇さんの意見や先生の助言を参考に…した。すると、…までではできた。しかし、…についてはもう少し…。だから…」

【算数・数学】

- まとめ
 - ・指導事項に沿った要点について、児童生徒の言葉や解決方法を教員が算数・数学の用語を使って適切に価値付けてまとめる。
- 振り返り
 - ・板書やノートを見て次の点を振り返らせる。
解決方法（よりよい解決方法はどれか）
解決結果（どんな考え方、答えだったのか）
- 適用問題
 - ・本時の評価の観点に応じた適用問題を実施し、身に付けるべき内容の定着の様子を確認する。

【社会】

- まとめ
 - ・学習課題を振り返って結論をまとめる。
 - ・結論について他の児童生徒と話し合う。
 - ・学習課題についてレポートなどにまとめる。
- 振り返り
 - ・自分の調べ方や学び方、結果を振り返る。
 - ・学習成果を学校外の他者に伝える。
 - ・新たな問い（課題）を見出したり、追究したりする。

【理科】

- まとめ
 - ・規則性、共通性、連続性等について、科学的な言葉や概念を使って適切にまとめる。
- 振り返り
 - ・科学的な言葉や概念を使って新しい事象を説明する。
 - ・学習内容と関連した事象を、日常生活の中に見出し、根拠をもとに説明する。
 - ・振り返り問題で、身に付けた学習内容を確認する。
 - ・問題解決（探究）の過程を総合的に振り返る。

【英語】

- まとめと振り返り
 - <言語活動面>
 - ・本時の目標とともに、単元目標やCAN DOリストに照らして、「英語を用いて何ができるようになったか」を振り返らせる。
 - <言語材料面>
 - ・新出の文法事項を、既習の文法事項と関連付けてまとめる。
 - ・言語活動面及び言語材料面における課題を自覚させ、家庭学習や次時以降の授業につなげる。

「個に応じた指導」や「家庭学習」を充実させましょう

補充的な学習・発展的な学習の効果的な在り方

- 児童生徒のつまずきに応じた解決方法を示す。(丁寧な指導)
- 「分かったこと」が「できるようになる」まで繰り返し練習させる。
(できるまで徹底：課題克服プリントや全国学力・学習状況調査過去問題(単元別・領域別)が活用できます。)
- 「もし、～だったら」と考えを広げる方向性を示し、発展的に考える場を設ける。

小学校では「発展的な学習」、中学校では「補充的な学習」を児童生徒は求めています。児童生徒の個に応じた指導として、「補充的な学習」や「発展的な学習」を実施しましょう。

【参考】平成28年度熊本県学力調査質問紙調査(児童生徒対象)

- 難しい問題に挑戦する時間をもっと増やしてほしい。(小:65.9% 中:53.2%)
- 前の学年で学習した内容を、もう一度先生に教えてほしい。(小:48.7% 中:69.4%)

家庭学習(宿題)の効果的な在り方

- 年間を見通した、計画的な内容と量にする。(学校で統一、学年・教科間の調整)
- 提出と返却のシステムを決める。(提出先、時間、返却方法 など)
- 提出された内容は、必ず点検する。

「宿題がないときは家で勉強をしない」と回答した児童生徒が、小中とも少なくありません。一方で、教科の指導として、家庭学習の課題(宿題)に取り組ませている割合は、中学校でまだ十分ではない状況にあります。児童生徒の実態に応じた課題(宿題)に取り組ませましょう。

【参考】平成28年度熊本県学力調査質問紙調査(児童生徒対象、教員対象)

- 家で、学校の宿題のほかにもどんな勉強をしていますか。
※自分で計画を立てて勉強している。(小:17.3% 中:13.5%) ※宿題がないときはしない。(小:20.8% 中:20.1%)
- 教科の指導として家庭学習の課題(宿題)を与えていますか。(小:91.6% 中:69.8%)

学校全体の取組や小中連携した取組を進めましょう!



児童生徒への指導は、学年や学校全体で統一して行うと効果的です。担任(担当)が替わったり、学年が上がったりしても、「授業の進め方」、「ノートのとめ方」、「家庭学習の在り方」などの学び方が変わらなければ、児童生徒は安心して学ぶことができます。また、小学校と中学校が同じ方向で取り組むことも大切です。

チームで児童生徒を育てていく、学校全体の取組や小中連携した取組をお願いします。

※補充的な学習、発展的な学習や家庭学習のための問題を県教育委員会ホームページに掲載しています。

詳しくは、リーフレット中面をご覧ください。

課題改善が見られた内容

小学校国語

次に取り組む内容

3年 3(3) (正答率 38.6%)

【ねらい】
登場人物の性格や気持ちの変化について、叙述を基に読むこと

【本文(一部)】

文章は省略しています。
(山下明生著「カモメがくれた三かくの海」による。)

【問題】(3) 一部②③「耳に口をつけて」とありますが、なぜ、ワタルくんとおかあさんは、耳に口をつけて言ったのでしょうか。そのときの森の様子と、二人が耳に口をつけて言ったわけを次の口に書きましよう。

5年 1(2) (正答率 84.6%)

【ねらい】
自分の意見と比べるなどして考えをまとめること

【問題】

(2) 記録の花田さんは、二つのゲームに対する意見を、次の【整理した表】にまとめようとしています。【今回の話し合いの様子】から、表のCとDに当てはまる内容の文を書きましよう。
【整理した表】

心配	よさ	
D	○夢中になって答えを考える。 ○自然と協力でできる。	しりとりゲーム
	C	もの当てゲーム

指導のポイント

以下に示す学習活動を行い、読む力を付けるようにすることが大切です。

- 目的に応じて資料を読み、自分の考えをまとめて、書いたり話したりする活動
- 登場人物の行動、性格、気持ちの変化、情景などを捉え、自分の考えをまとめる活動
 - ・「○○の内容に触れて書く」「資料から取り上げて書く」「○字以上○字以内で書く」などの条件を付けて書く活動に取り組む。

【小学校国語科の指導の重点】から

- 日常的な語彙の指導を継続する。
- 日常的に読書に親しむために、学校図書館を計画的に活用する。
 - ・目的に応じて本や文章などを選ぶことができるようにする。
 - ・授業の中で、同じ作者の別の本や関連する資料など、様々な種類の文章を読む学習を行う。

課題改善が見られた内容

中学校国語

次に取り組む内容

2年 2(6) (正答率 26.6%)

【ねらい】
単語をその性質から、正しく品詞に分類すること

【問題】

(6) 次の文章の——線部①から③の品詞として正しいものを、次のアからカまでのの中からそれぞれ一つずつ選びなさい。

私は、①静かな森の中の②大きな木の下で、③小さい花を見つけた。

ア 名詞 イ 動詞 ウ 形容詞
エ 連体詞 オ 副詞 カ 形容動詞
(正答)①カ、②エ、③ウ

2年 2(4) (正答率 90.0%)

【ねらい】
「見る」の謙譲語「拝見する」を正しく用いること

【問題】

(4) 次の文の——線部「見た」を敬語に換えます。最も適切な言葉を、()のAからEまでの中から一つ選びなさい。

私は、美術館で先生の作品を見た。

私は、美術館で先生の作品を

ア ご覧になりました。

イ ご覧になりました。

ウ 拝見しました。

エ 拝見されました。

指導のポイント

以下に示す学習活動を行い、各領域で単語の意味・働き・使い方に着目して使うことができるようにすることが大切です。

- カードに書いた単語を分類しながら、文法的な特徴に気付く活動
- 目的や意図に応じた文章を書く(話す)活動
 - ・伝えたい内容を明確にするために、語順を検討するとともに、それぞれの単語が文の中でどのような働きをしているか考える。
- 文章を解釈するために読む活動
 - ・文章中の語句を比較したり書き換えたりして、文の中で果たす役割の違いに着目する。

【中学校国語科の指導の重点】から

- 国語の授業や実際の言語活動で語彙を活用させる。体系付けてまとめた知識を得る活動を行う。
全国学力・学習状況調査(H26・27授業アイデア例、H27解説資料P53、報告書P55)

課題改善が見られた内容

小学校算数

次に取り組む内容

4年 1(1) (正答率83.1%)

ねらい 小数のたし算ができること

※末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題です。

問題 6.34 + 2.7

【誤答例① 6.61】 【誤答例② 0.661】

$$\begin{array}{r} 6.34 \\ + 2.7 \\ \hline 6.61 \end{array} \qquad \begin{array}{r} 6.34 \\ + 2.7 \\ \hline 0.661 \end{array}$$

※末尾をそろえて計算している。

※末尾をそろえて計算し、乗法の計算と同様に小数点の位置を移動している。

5年 2(3) (正答率74.5%)

ねらい かけ算とわり算の相互関係から計算の結果を確かめる方法が分かること

※計算の確かめの方法を理解しているかどうかをみる問題です。

問題

80.5 ÷ 3.2を計算して、答えを25あまり0.5と求めました。この答えが正しいかどうかを次のように確かめます。

エ × オ + カ を計算して キ になるかどうかを確かめます。

上のエ、オ、カ、キ、に入る数を「80.5」、「3.2」、「25」、「0.5」の中から選んでその数を書きましょう。

指導のポイント

以下に示す学習活動を関連付けて行い、計算の能力を身に付けることができるようにすることが大切です。

- 計算の結果を見積もる活動
 - ・ 日常の事象と関連付けたり児童が主体的に関わる場面を設けたりすること。
- 計算の仕方を考える活動
 - ・ 整数の除法の計算の仕方と関連付けて考えること。
- 計算の結果を振り返って確かめる活動
 - ・ (被除数) = (除数) × (商) + (余り) の式に当てはめて、商、除数、余りの大きさの関係をとらえること。

課題改善が見られた内容

中学校数学

次に取り組む内容

2年 1(1) (正答率84.6%)

ねらい 簡単な整式の加法、減法の計算ができること

※いくつかの文字を含む整式の加法、減法の計算をすることができるかどうかをみる問題です。

問題 $5x - 2y - 7x + 3y$

※正答率は、84.6%であり相当数の生徒ができています。
※引き続き文字式の計算が確実にできるように指導することが大切です。



$$2(3x - 2y) - 3(2x + 5y)$$

※さらに、連立二元一次方程式を解くために必要な、かっこを含む文字式の計算ができるようにすることが大切です。その際、いたずらに複雑で無目的な計算練習にならないように配慮する必要があります。

1年 1(1) (正答率54.8%)

ねらい 正の数と負の数の意味を理解していること

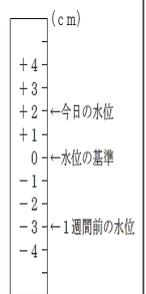
※実生活の場面において、ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表されていることを理解しているかどうかをみる問題です。

問題

プールの水位を、下の図のように0cmを基準にして、それより水位が高いときは正の数で、水位が低いときは負の数で表します。

今日の水位は+2cmで1週間前の水位は-3cmでした。今日の水位が、1週間前の水位からどれだけ高くなったかを求める式として正しいものを、下のアからエまでの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア (+2) + (-3) イ (+2) - (-3)
ウ (-3) + (+2) エ (-3) - (+2)



指導のポイント

以下に示す学習活動を行い、数についての感覚を豊かにすることが大切です。

- 2つの数量の差が表す意味を、正の数と負の数の範囲で理解できるようにすること。
 - ・ 実生活の様々な場面における数量やその変化を、正の数と負の数を用いて表す場面を設定すること。
 - ・ ある基準に対して反対の方向や性質をもつ数量が正の数と負の数で表せるなどの正の数と負の数の必要性について理解できるようにすること。

【具体的な授業例】

- プールの水位の基準を0cmとし、今日の水位を+2cm、1週間前の水位を-3cmとしたときの差を式に表して求める場面を設定すること。
- その際、問題場面を図や数直線に表し、判断した式と関連付けて理解できるようにすること。

課題改善が見られた内容

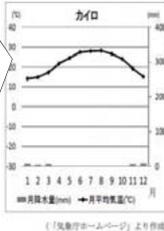
中学校社会

次に取り組む内容

1年 2(4) (正答率72.8%)

ねらい 住居の特徴から、人々のくらしの工夫を説明できること
 ※2つの気候帯の雨温図を読み取り、そこで生活する人々の暮らしの工夫について、気候と住居の特徴とを関連付けながら説明することができるかどうかをみる問題です。

雨温図から、年間降水量や気温差を読み取り気候の特徴をつかむ。

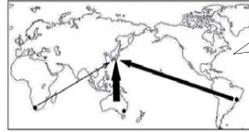


その気候にある住居の特徴をつかみ、人々の暮らしの工夫を説明する。

2年 1(4) (正答率21.0%)

ねらい 資料から鉄鉱石を読み取ることができること
 ※地図から国々の名称と位置、また、統計資料から国々の産業など地域的特色を読み取ることができるかどうかをみる問題です。

【資料5】



まず、●印の付いた首都がある国の名称と位置への理解から、世界の地域構成をとらえているかどうかを見る。

【資料6】

輸入品目	日本の輸入国上位4ヶ国				単位 (%)
A	オーストラリア	インドネシア	ロシア	カナダ	
	64.4	16.1	7.6	6.2	
B	ロシア	オーストラリア	中国	アラブ首長国連邦	
	19.0	16.2	15.3	10.6	
C	オーストラリア	ブラジル	南アフリカ共和国	カナダ	
	56.5	29.6	5.5	3.3	
D	アメリカ	カナダ	ブラジル	チリ	
	36.9	24.7	22.6	6.9	

つぎに、統計資料等を使って、各州の自然、産業生活・文化などについて概観し、基礎的・基本的な知識を身に付けているかどうかを見る。

指導のポイント

以下に示す「資料を読み取る」際の視点をもたせることが大切です。

- 資料そのものの輪郭をおさえる
 - ・タイトル、年、出典など
- 資料の内容を分析的に読み取る
 - ・グラフ(数値、変化、原因、今後の動きなどを予想するなど)
 - ・文章(繰り返し出てくる言葉を探す、キーワードを探す、人物に注目するなど)
- 資料の内容を総合的に読み取る
 - ・5W1Hを用いて内容を整理、分析する(総合的に説明する)、考察・構想など

新聞や公的機関発行の資料等を活用!

課題改善が見られた内容

中学校理科

次に取り組む内容

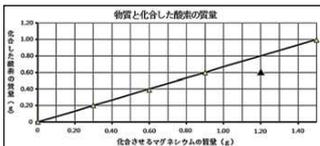
2年 2(4) (正答率46.2%)

ねらい グラフや表を読み取り、反応したマグネシウムの量を求めていること
 ※実験結果グラフから、反応せずに残っているマグネシウムの量を求めることができるかどうかをみる問題です。(H27年度正答率22.0%)

問題

1. 20gのマグネシウムが加熱後に1.80gになったことから、マグネシウムと結びついた酸素の質量は0.60gである。
 グラフから、0.60gの酸素と結びついたマグネシウムは(X)gであると考えられる。よって、反応する前のマグネシウムの質量1.20gから(X)gを引くと、反応せずに残っているマグネシウムは(Y)gであると考えられる。

マグネシウムでの実験結果					
マグネシウムの質量(g)	0.30	0.60	0.90	1.20	1.50
生成した酸化マグネシウムの質量(g)	0.50	0.99	1.50	1.80	2.49
化合した酸素の質量(g)	0.20	0.39	0.60	0.60	0.99



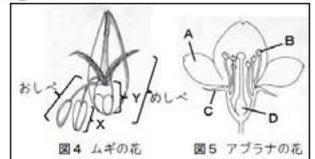
1年 4(3) (正答率26.4%)

ねらい アブラナとムギの花を比較し、ムギの子房やムギが被子植物であることを読み取ることができること。
 ※アブラナとムギのめしべのつくりが同じであることから、ムギが被子植物であることを判断できるかどうかをみる問題です。

問題

【ムギの花とアブラナの花の比較】

ムギの花には、花弁がない。
 ムギの花のおしべとめしべのつくりはアブラナと同じであることから、図4のムギのめしべにあるYは、(ア)であると考えられる。



このことから、ムギは種子植物の中の(イ)植物であることが分かる。

指導のポイント

以下の点に留意し、生物の体のつくりの特徴や生活の様子を理解させることが大切です。

- 観察の視点を示し、異なる種類の生物を比較させたり、継続して観察している生物の成長や変化の様子を比較させたりする。
- 観察・実験の結果を課題、予想と照らし合わせ、自らの考えや他者の考えを比較、検討して、より妥当な考えに改善する。
- 生物の共通点や規則性を日常生活と関連付けて説明させる。

2年 8(3) (正答率59.3%)

ねらい 話の大切な部分などを、正確に読み取ること
※登場人物がなぜそう言ったのか、その理由が分かる部分を読み取ることができるかどうかをみる問題です。

問題 キング先生が下線部のように言った理由が分かる英語1文を、対話文中から抜き出して書きなさい。
(前文略)
Ms. King: What did he do in Kumamoto?
Ken: He was an English teacher at Kumamoto University. He worked hard for the students and helped them a lot. I learned about him from some books.
Ms. King: Wow, he was a good teacher.
(後文略)
【正答】He worked hard for the students and helped them a lot.

1年 7(2) (正答率10.9%)

ねらい 語と語のつながりに注意して、質問文を正しく書くこと
※会話文の中から「何を尋ねているのか」を判断して、適切な質問文を書くことができるかどうかをみる問題です。

問題 対話文中の()に適する英語を書きなさい。
(前文略)
Yumi: *Undokai* in Cambodia?
Chuan Saya: Yes. We learned about it from Japanese people.
Yumi: Really? () in your *undokai*?
Chuan Saya: We have *tsunahiki, kibasen, tamaire* and so on.
(後文略)
【正答例】(What do you have) in your *undokai*?

指導のポイント

○ 以下のような、5W1Hを用いた基本的な会話や、即興的な英語でのやり取りなど、「英語を使う」場面を計画的、かつ継続的に設定することが大切です。

(例) 帯活動として、1分間ペアによる会話等の活動に取り組む。

「Whatで始まる疑問文」や「Whereで始まる疑問文」など言語材料に焦点を当てた活動や、「好きな食べ物」や「好きな場所」など会話内容に焦点を当てた活動に取り組む。その際、教科書の各単元内容との関連を図り、年間を通して計画的、かつ継続的に取り組む。

[言語材料に焦点を当てた活動例] Whatで始まる疑問文
A: What do you have in your pocket? B: I have ~.
A: What sport do you play? B: I play ~.
A: What Japanese food do you like? B: I like ~.
A: What time do you get up? B: I get up at ~.

[会話内容に焦点を当てた活動例] テーマ「好きな食べ物」
A: What food do you like? B: I like *udon*.
A: What is your favorite *udon*? B: It's *kitsune udon*.
A: Do you make it? B: No, but I have my favorite shop.
A: Really? Where is it? B: It's near the station.

県教育委員会が提供している資料

1 熊本県学力調査結果

・過去の県学力調査の結果を掲載しています。
(熊本県教育委員会→義務教育→学力向上→熊本県学力調査)



2 熊本県学力調査「ゆうチャレンジ」課題克服プリント

・県学力調査で見られた課題をもとに、補充学習を行うことができる学習シートです。
(各学校へCDまたはメールで配付)

3 全国学力・学習状況調査過去問題(単元別・領域別)

・過去の全国学力・学習状況調査の問題を、教科書の単元や領域別の対応表をもとに掲載しています。
(熊本県教育委員会→義務教育→全国学力・学習状況調査過去問題(単元別・領域別))

4 国語指導の手引き

・本県の国語の授業の課題解決を目指して作成した資料です。
(熊本県教育委員会→義務教育→国語指導の手引き)



5 基礎学力向上のための学習プログラム「学びっ子」

・国語及び算数・数学の基礎基本を楽しく学べる学習支援プログラムです。
(熊本県教育委員会→義務教育→学力向上→基礎学力向上のための学習プログラム「学びっ子」)

6 小学校用英語教材「I CAN DO IT! Junior」
中学生英語音声CDテキスト「I CAN DO IT!」

熊本版英語読み物資料「The Spirit of KUMAMOTO」

・熊本のことを英語で紹介したり、道徳教育用郷土資料「熊本の心」を英語で要約したりしている教材です。(各学校へテキスト、DVD、CD等を配付)

授業改善に向けて【教諭・講師用チェックリスト】(サンプル)

氏名()

取組の内容				
課題意識	県学力調査や全国学力・学習状況調査等で明らかになった児童生徒の課題について理解している。			
	学校の学力向上の共通実践事項について、常に意識して取り組んでいる。			
	全国学力・学習状況調査や県学力調査で出題された内容について把握している。 (教科書に付箋を貼るなど)			
日々の授業	教材研究のもと、学習のねらいや授業展開、評価基準等を明確にして、熊本型授業に取り組んでいる。			
	授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を児童生徒に示している。			
	児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や教材の工夫を行っている。			
	授業において、自分の調べたことや考えたことを分かりやすく文章に表現する(文章に書く、図や表に表すなど)学習を位置付けている。			
	主張点や根拠・理由を明確にして表現したり、互いの考えに学び合ったりするなどの言語活動を位置付けている。			
	授業の最後に、学習したことを振り返る活動や学習のまとめを位置付けている。			
	1時間の学習内容について適用問題を位置付けるなど、学習の定着を図る時間を適切に位置付けている。			
補充指導・日常指導	1時間の学習の流れが分かるような板書や学習環境の工夫に取り組んでいる。			
	評価活動を適切に位置付け、補充指導や発展的指導等、個に応じた指導に取り組んでいる。			
	全国学力・学習状況調査や県学力調査(ゆうチャレンジ)の過去問題、全国学力・学習状況調査過去問題(単元別・領域別)を授業や補充指導に活用している。(国語、算数・数学)			
	家庭学習のてびき等をもとに、家庭学習の方法について具体的に指導し、適切な評価と指導を行っている。			
	学習規律(私語をしない、話をしている人の方を向いて聞く、聞き手に向かって話をする、授業開始のチャイムを守るなど)の維持を徹底している。			

※定期的に自分で確認したり、校内研修等で授業を公開する際に互いに確認し合ったりするなどして、授業改善の目安としましょう。

※学校全体用チェックリストは県教育委員会HPに掲載しています。

【参考：学力向上対策検討委員会からの提言(平成28年3月)】

分かる授業

学習目標(めあて・ねらい)の提示や、学習の振り返り・まとめを確実にするなど、各学校における授業モデルを共通実践し、「分かる授業」に取り組みましょう。

表現力の育成

主張点や根拠・理由を明確にして表現(話すこと、書くこと)したり、互いの考えに学び合ったりするなど、児童生徒の言語活動を充実させ、表現力等の育成に取り組みましょう。

学習習慣の形成

学年に応じた家庭学習の在り方について全教職員で共通理解し、「家庭学習のてびき」で学習方法を具体的に示し、継続的な指導と評価のもと、児童生徒の主体的、計画的な学習習慣の形成に取り組みましょう。

教師同士の学び合い

授業を積極的に公開し、教師が互いに学び合いながら、日常的に指導力の向上に努めましょう。

家庭・地域との連携・協働

児童生徒の学力・学習の状況や学校の取組の状況を、家庭や地域に積極的に発信し、学校と家庭・地域が連携・協働して学力の向上に取り組みましょう。

< 問合せ先 >

熊本県教育庁教育指導局義務教育課義務教育指導係
〒862-8609 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号
TEL: 096-333-2688 <http://kyouiku.higo.ed.jp/>